

### 9 3. 下水道よもやま話 「私がちょっと嬉しくなる瞬間」

今年の正月、知り合いの仙台市の職員の方から頂いた年賀状に、去年は映画撮影に参加しましたと書かれてありました。この時はエキストラでもされたのかと思ったのですが、後になって、1月に公開された「ゴールデンランバー」という映画で主人公の男性が雨水管を使って逃走するシーンを、仙台市建設局の全面的なご協力の下で撮影されたということを知りました。

この映画に限らず、普段何気にテレビドラマや映画を見ていると、戦隊ものの特撮でヒーローと悪役が戦っているバックが水処理施設の建物であったり、犯人のアジトに通じる秘密の抜け道が下水処理場の管廊であったりなど、意外に下水道施設が使われていることに気がきます。こんな時、最後に流れるクレジットタイトルを凝視していると、撮影協力の中にちゃんと〇〇市下水道部等と出ています。ちなみに私たちの職場である JS 技術開発研修本部の建物も、何度か刑事ドラマの中で警察署として登場しています（ちなみに庇の付いた本館の玄関が、警察署のように見えることが撮影に使われた理由らしい）。

初めに紹介した映画では、下水道施設が重要な舞台の一つとなっており、主人公もそこが雨水管であることを台詞の中で語ってありますが、ほとんどの場合、そこが下水道施設であることは、見ている方は分からないであろうと思います。このことは、下水道自体が、日常生活の中で何気に使われ、その存在を実感して頂くのが難しいことに少し通じるところがあるかも知れません。下水道施設がテレビドラマや映画の撮影に利用されていることが知られ、少しでも下水道への理解や関心を深めることに繋がればと思います。

ぜひ皆さんもテレビドラマや映画の1シーンに映る下水道施設を探して見てください。見つけた瞬間、ちょっと嬉しい気分になれます！？

＜総括主任研究員 橋本敏一＞

※ J S 技術開発情報メール No. 1 0 2 号 (2010/5/7) に掲載